

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
保育総合研究 Child Care Synthesis Research		児童教育学科 幼児教育学専攻	2年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
演習	2	必修	中津 愛子・縄田 也千・子安 崇夫・ 梅田 美穂・鄭 暁琳・田中 奏子	
概要				
<p>子どもの教育や保育に関する研究課題を自ら見つけ、その課題を解決するための方法を決定・遂行し、その結果について検討し今後の課題を見つけ出す。研究目的、研究方法から、結果、考察に至るまで、担当教員の指導を受けながらテーマごとに進め、その成果を発表し、報告書にまとめる。</p>				
到達目標				
<p>(1) 適切なテーマを決め、研究計画が作成できる。  (2) 各自のテーマに沿った内容で、研究活動を深めていくことができる。  (3) 研究の内容を、他者にわかるように発表することができる。  (4) 各自が発表した内容を原稿として文章にまとめることができる。</p>				
授業内容とすすめ方				
<p>平成30年度は、下記のような内容で行われた。  「真のノーマライゼーション」の普遍的理解のために  障害児入所施設の役割の違い ー福祉型施設と医療型施設を比較してー  バリアフリーを意識したドールハウス  壁面構成  異年齢保育におけるルール遊びの発達に関する検討  幼児期の運動遊びに関する研究 ー実習で行った運動遊び実践からの考察ー  おにごっこで育つ力  手遊びに関する研究  パネルシアター「グーちよきばーでなにつくろう」「3びきのこぶた」  エプロンシアター「はらぺこあおむし」「ぼんたのじどうはんばいき」「あかずきん」「3びきのこぶた」  リサイクルアート ー廃材を使ってー ーペットボトルをつかってー  折り紙を使った装飾アート  関節可動人形の制作  連弾と打楽器による音楽物語 ー海の中の不思議な世界ー</p>				
成績評価 方 法	毎回の取り組み（意欲）50%、レポート（関心）20%、発表（技術）10%、報告集作成（表現）20%			
テキストおよび 参 考 文 献	自分自身で選択、購入すること			
メ ッ セ ー ジ な ど	2年間で学んだことの集大成となるよう取り組んで欲しいと思います。			

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 適切なテーマを決め、研究計画が作成できる。	何を明らかにしたいか、何を表現したいかという研究の目的を明確にし、研究方法を適切に選択できる。研究計画書に必要な内容を記載できる。	テーマを設定し、研究計画書に必要な内容をほぼ記載することができる。	テーマは設定したが、研究計画書の記載には不足している点が認められる。	テーマが設定できず、研究計画書の提出がない。	レポート (知識・理解・技能・判断力)	20%
(2) 各自のテーマに沿った内容で、研究活動を深めていくことができる。	意欲を持ち、自ら考え、工夫し、指導教員からの助言・指導を受け入れて、研究を深めることができる。	ほぼ主体的に研究活動に取り組み、指導や助言を受け入れて研究を進めることができる。	研究活動に取り組む意欲はみられるが、自分で進めていこうとする力に欠けるところがある。	研究活動に取り組む姿勢がみられない。	活動への取り組み (関心・意欲・態度・知識・理解・技能・思考力・判断力・表現力)	50%
(3) 研究の内容を、他者にわかるように発表することができる。	研究の成果を他者にわかりやすい方法で完璧に表現することができる。	ほぼ、わかりやすい方法で表現することができる。	わかりやすく表現するための工夫がやや不足している。	研究の成果を発表会で発表していない。	発表会での発表(表現力)	10%
(4) 各自が発表した内容を原稿として文章にまとめることができる。	研究の成果を適切に文章にまとめることができる。	書式に従い、ほぼ必要な内容を文章に記述することができる。	誤字、脱字をいくつか認め、記述内容も不明瞭であり、指導教員からの助言・指導を受ければ、報告集を提出できる。	報告集原稿提出なし。	報告集原稿の作成 (思考力・表現)	20%